TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

生きることを考える　私たちは守られている
詩編 5 章

2022 年 3 月 19 日&20 日
ジェシー・セザリオ　牧師

オンラインで礼拝に参加してくださっている皆さん、TBC 三郷、TBC 立川、鳥取ワーシップサイト、TBC ハブ、関東プレインズ・バプテスト教会、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、こんにちは。
今日、神の祝福が皆さんの上にありますように。
お祈りします。
詩篇5（聖書協会共同訳）[1]指揮者によって。笛に合わせて。賛歌。ダビデの詩。[2]主よ、私の言葉に耳を傾けてください。私のつぶやきを聞き分けてください。[3]私の叫びに心を向けてください。わが王、わが神よ。私はあなたに祈っています。[4]主よ、朝に私の声を聞いてください。朝が来る度に、あなたに向かって身を整え待ち望みます。[5]あなたは不正を喜ぶ神ではなくあなたのもとに悪がとどまることはありません。[6]驕る者は、あなたの前に立つことはできません。／なたは、悪事を働く者すべてを憎み[7]偽りを語る者を滅ぼします。血を流す者と欺く者を主は忌み嫌います。[8]しかし私は、豊かな慈しみによってあなたの家に入りあなたを畏れ敬いつつ、聖なる宮にひれ伏します。[9]主よ、義によって導いてください。私に敵対する者がいます。私の前にあなたの道をまっすぐにしてください。[10]彼らの口は確かなことを語らずその腹は腐っています。舌は滑らかでも、喉は開いた墓。[11]神よ、彼らに罪を負わせてください。その謀のために、倒れますように。度重なる背きのゆえに、彼らを追い出してください。彼らはあなたに逆らったのです。[12]あなたのもとに逃れるすべての者が喜びとこしえに喜び歌いますように。あなたは彼らを覆い御名を愛する者があなたを喜び祝いますように。[13]主よ、あなたは正しき者を祝福し御旨の盾で守ってくださいます。初めに「詩篇：生きることを考える」シリーズを続けます。このシリーズでは、詩篇を3つの観点から見ていきます。

1. 詩篇をどう理解するか
2. 新約聖書の中ではどう用いられているか
3. イエス・キリストの福音が、詩篇の中でどう生きているか

今日は学ぶ詩篇 5 は嘆きであり、ダビデの悲しみや困難が表現されています。ダビデは自分の周りを取り囲む反対勢力のせいで、自分には限界があることに気づき、それにより苦しみ、悲しみました。それを取り除くことで喜びを取り戻したいと願っていました。
ダビデは詩篇 5 でいくつか比較をあげます。最初は、ダビデは自分を神と比較します。次は敵を神と比較します。その結果、他にも注目しないといけない比較が出てきます。これらを学ぶことによって、私たち自身も天を見上げるしかない時、救い主が必要だということをより深く理解することができます。出発点詩篇5の冒頭に、「指揮者によって。笛に合わせて。賛歌。ダビデの詩。」とあります。詩篇 4 と同様に、詩篇 5 は、「指揮者によって」、人々が歌うものだと書かれています。人々が神へ歌うのは賛美だけでなく、祈りや嘆きも歌っていることに注目してください。コロサイ 3:16 でパウロはこう言います、「キリストの言葉が、あなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして教え合い、諭し合い、詩と賛歌と霊の歌により、感謝して神に向かって心から歌いなさい。」エフェソ 5:19 でも似ていることが命じられています、「互いに詩と賛歌と霊の歌を唱え、主に向かって心から歌い、また賛美しなさい。」新約聖書の中で 2 箇所、このように語られています。それだけ大切だと言えるのでしょう。前回、答えの出ない祈りの重みに押しつぶされそうになった時は、神の御言葉を自分自身に語り続けることが大切だと言いました。また全身全霊で、自分に対し、他者と一緒に、神に対して祈りを歌にし、神の御言葉や約束を歌うことも、自分に御言葉を語ることに関係している、失われつつある適用の方法です。祈りや詩篇や賛美を歌うことは霊的にとても力強いことであり、人と共に歌うことでさらに力強くなります。言葉以上の何かがそこにはあります。詩篇 71:23「私の唇は喜び歌いあなたに贖われた私の魂はあなたをほめ歌います。」歌を歌うことで、心の底から神とのコミュニケーションを促します。口から出る歌詞が真実を語り賛美します—あなたの霊的な歌で、霊によって語り賛美します。多くの人々が共に賛美をする時、それがどれほど力強いものとなり得るか、想像できるでしょう。そのため、教会に実際通い、神の家でキリストの体が一つとなって、霊によって賛美することは大切です。**最近、教会で歌って賛美しましたか。私たちの信仰生活における大切な部分です。**朝に詩篇5が嘆きの歌である理由は、ダビデは大きな問題を抱えていたからです。その問題は彼の主にある喜びを妨げていました。その問題がなくなる気配もありません。ダビデは喜びを失っていました。自分の置かれている状況のせいで、神を賛美できなくなってしまうことは重大な問題です。危機的な状況です。誰もが喜びを奪ってしまうほどの危機的状況に直面したことがあると思います。今日、直面されているかもしれません。しかし、この詩篇の最初に書かれていることからダビデは何を信じているか見てください。

- 自分は力のない王であるが、全能の神がおられ、王の中の王である彼の神は自分よりもはるかに力があること。
- 自分では解決できない問題にも限りがあり、無限の神には解決できること。
- 神はその問題を超越し、全てをコントロールしていること。

私たちは、人生で直面するあらゆる問題と危機をこの観点から見る必要があります。特に、「解決できないもの」に関して、です。これに対して神の約束はこうです。問題が解決不可能であるようにみえても、

- 神はおられ
- 神は解決策をお持ちで
- 神は全てをコントロールしている

人生におけるどんな問題でも、ここを出発点にすればよいのです。どんな問題でも。
ここで私たちの多くが見逃してしまいがちな基礎的な

重要ポイントを申し上げます。祈る以前に、神への信仰を持つ必要があります。神が全てをコントロールし、いつでも私たちと共におられ、私たちに耳を傾けてくださる、ということを信じる必要があります。ダビデは**詩篇 5:2-4** で次にように言っています。**[2]主よ、私の言葉に耳を傾けてください。／私のつぶやきを聞き分けてください。[3]私の叫びに心を向けてください。／わが王、わが神よ。／私はあなたに祈っています。[4]主よ、朝に私の声を聞いてください。／朝が来る度に、あなたに向かって身を整え／待ち望みます。**ダビデは問題について何度も繰り返し考えていたことがわかります。ある問題に集中するあまり、朝起きた時からずっとそれが心に引っかかっているなら、重大な問題だといわざるを得ません。何かを自分でコントロールできなくなった時、どれほどの人が天を仰ぐでしょうか。天を仰いで神と話すかもしれません。ダビデは、他に助けを求めるところがないと知り、本能的に天を仰ぎます。天を仰いで、神の助けを待っているのです。子供が母親か父親の助けを求めて上を向く姿を想像してみてください。ダビデも同じです。ダビデも、神が備えていることを心の中で確信しています。神はおられ、ダビデの叫びに耳を傾け、全てをコントロールされ、神がお望みならば解決できることを。だから、神を待つのです。神の子供であれば、神は過保護にあらゆるニーズに答えてくださると思っているかもしれません。それは本当に私たちが望むことなのでしょうか。いいえ、違います。危機的状況の一つ一つに、神のご計画があります。それは私たちが自分の子供たちに教えようとしていることと同じです。私が毎日、子供たちに教えようとしていることと同じです。自分の力で最善を尽くすべきですが、

・問題が重大で
・自分一人では解決ができないと気づき
・私が知っておくべき事柄だと感じたなら

神は、まずは私のもとへ来なさい、と言います。
ルールを破り、自分で解決しようとする前にすぐそうすること。私たちはそれをさらに悪化させるだけだからです。子供でも、自分自身にも起こり得ることです。
しかしこれは神が私たちに学ぼうとさせていることの鍵です。私たちが何かを必要とする際に、神を仰ぎ、助けを待つタイミングを。このステップを見落とさないでください。これを見落とすから子供は間違いを起こして状況をさらに悪化させてしまいます。そうですよね。親はいつも、「どうしてもう少し待って、私たちの助けを求めなかったのか？」と考えてしまいます。私たち大人も同じ間違いをおこす可能性があります。

ダビデの例(1)バテ・シェバ：1サムエル 12:11-12 ダビデがバテ・シェバを発見した時にその間違いが見えます。皆さんもその話を知っていると思いますが。ダビデはある晩、王宮の屋上からバテ・シェバが体を洗っている様子が見えました。彼女の美しさにとりつかれ、彼女が誰なのかを調べました。彼女が人妻であったことを知っても、気にしませんでした。彼女を呼び寄せ、一晩を共にします。そして彼女は身ごもってしまうのです。ダビデは窮地に立たされ、大変なことになってしまいました。ダビデは上手い解決策を考えます。彼女の夫を激戦の最前列に出し、戦死させ、いかにも合法的に彼女を妻として迎え入れる計画です。何度か試みて、ダビデの計画は成功してしまいました。ダビデは問題を奇麗に解決したと思い込みます。その後、預言者ナタンがダビデのもとにやってきて、多くの羊を飼っている金持ちが、貧しい人から羊を盗み、その羊を、自分のところにやって来た旅人の食事に出した、という話をしました。ダビデはその金持ちの話を聞いて、**「主は生きておられる。そのようなことをした男はしななければならない。」**と言います。それを聞いたナタンは、その男こそダビデであり、神はお怒りなのだと伝えます。その時、神はダビデに次のように言っています。**1サムエル 12:8「あなたの主人の家をあなたに与え、主人の妻たちをあなたの懐に与え、イスラエルとユダの家をあなたに与えた。もし不足ならば、私はいくらでもあなたに与えたであろう。」**神はダビデが欲しいものは全て喜んで与えようと考えておられました。ダビデは神に信頼を寄せ、神のことを待っていればよかったのです。しかし、ダビデは待つことができませんでした。未熟な信仰心により、大変なことになり、ひどい罪を犯すことになってしまいました。ダビデは自分で問題を解決しようとして、状況を悪化させてしまいました。私たちも何回同じようなことをしてきたでしょうか。何度もしてきたと思います。しかし、それでも希望はあります。私たちもダビデのように罪を犯してしまっても、ダビデのように自分の罪を神の御前に告白し、イエスの元へ行くと聖書では、主は私たちを赦して下さると言います。罪の正しい対応に対する聖書にある約束です。

「私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、あらゆる不正から清めてくださいます。」1ヨハネ 1:9

考えるための質問 1:危機的状況に直面した時、大きな問題に直面している時、正しい観点からその問題を見る必要があります。ここが出発点です。

1. 神はおられる。神はともにおられます。
2. 直面している問題は限りがありますが、神は無限です。
3. 神は全ての主権を有しており、全てをコントロールしています。

そして、誠実に神に心から祈りを捧げ、問題を自分で解決しようとせず、神のことを待つのです。
それでも自分で問題を解決しようとして状況が悪化した時、それを告白し、信仰によって赦されることを覚えておいてください。**神に敵うものはいない**
このように、ダビデは自分の思うように物事を運ぶのに優れていました。今回も例外ではありませんでした。
ダビデは欲しいものを得られるように、神が必ず同意してくださる事を持ち出し、神に訴え始めます。ダビデは、自分の信仰にある義を神の義と比較します。次に、敵が信仰のないこと、義とされていないことを神と神の義と比較します。こうもなればダビデにとっては有利です。ダビデは決して、自分の義と敵の義を比較することはありませんでした。そこが重要なポイントです。

詩篇 5:5-7[5]あなたは不正を喜ぶ神ではなくあなたのもとに悪がとどまることはありません。[6]驕る者は、あなたの前に立つことはできません。あなたは、悪事を働く者すべてを憎み [7]偽りを語る者を滅ぼします。血を流す者と欺く者を主は忌み嫌います。」ここでダビデは神に対して、神は不正や悪事を働く者は嫌いですよね、と言っています。このように、ダビデは神の義を強調します。神の義は非常に重要な概念であり、それは神の愛から溢れ出る神の特性なのです。義は三位一体の父なる神、イエス、聖霊のいずれ

もが持ち合わせている特性なのです。ダビデは5節で、罪によって義ではない人達は神の御前に立つことはできないことを知っています。6節でダビデは、神が2種類の者―血を流す者と、欺く者―を嫌うと言います。もちろん、これらの人々は共謀な人達であり、有罪です。神の義を考える時、ケースバイケースで問題を裁くだけではありません。神の義はそこで留まりません。神のなさることは無限に、普遍的に正しく、完全なのです。ダビデは神の心の内を知っていました。有罪の人々が神の御前に立ち、罪人だと認められた時に、ダビデは自分が勝利することを確信していました。その為、ダビデは8節でこのように締めくくっています。「[8]**しかし私は、豊かな慈しみによって／あなたの家に入り／あなたを畏れ敬いつつ、聖なる宮にひれ伏します。**」この節を読むのが好きです。この詩篇の真ん中にピッタリと当てはまる文章だと感じます。旧約聖書で、特に詩篇やその他、知恵に関する書物の中で、ユダヤ人は比較をよく用いていました。

詩篇5:2-4は主人公ダビデについて、詩篇5:5-7は敵について、書かれています。そして詩篇5:8が頂点です。詩篇5:9-10はまた敵について、そして最後の詩篇5:11-12では神の栄光を喜び祝福します。ダビデと同じように、私たちも同じ希望を持っています。ダビデは、このように続けます。「[9]主よ、義によって導いてください。私に敵対する者がいます。私の前にあなたの道をまっすぐにしてください。[10]彼らの口は確かなことを語らずその腹は腐っています。舌は滑らかでも、喉は開いた墓。[11]神よ、彼らに罪を負わせてください。その謀のために、倒れますように。度重なる背きのゆえに、彼らを追い出してください。彼らはあなたに逆らったのです。」先週学んだペテロの言葉を借りれば、「この者たちは、捕らえられ、滅ぼされるために生まれて来た理性のない動物と同じで、自分が知りもしないことをそしるのです。そのような動物が滅ぼされるように、彼らも滅ぼされてしまいます。」2ペテロ2:12 理性のない動物と同じなのです。詩篇5:10を読んでも分かりますが、そのような理性のない動物には信仰はありません。誰かを素晴らしいと褒めたとしても、態度や、心や、考え方や、言葉の端々から、破滅が目的であることがわかります。ダビデは、神が彼らの悪事を見て、自分のために有利に働いて欲しいと望んでいるのです。私たちはダビデとどれほど似ているでしょうか。ダビデと似ていると感じますか。ダビデのようになりたいですか。詩篇5:8にあるように、心から神の聖なる宮に入りたいと望んでいますか？

ダビデの例(2):神の宮ある時、ダビデは王である自分はレバノン杉できた家に住んでいるにも関わらず、神の宮は天幕であることに深く心を痛め、神への愛から「神の神殿」をエルサレムの地に建設しようと考えました。預言者ナタンも「心にあることはなんでも行いなさい」(2サムエル7:2)と後押ししてくれました。しかし、その晩、神はナタンに、ダビデに何かを伝えるように言いました。それは、ダビデには神殿は作ってはいけないことでした。ダビデは2歴代誌28:3でその理由を語っています「しかし、神は私に言われた。『あなたは戦いに身を置き、人々の血を流してきた。それゆえ、あなたが私の名のために神殿を建てることはない』と。」神は義であられる為、血を流す者を嫌い、ダビデは該当しないと考えられたのです。ダビデは血を流す殺人者である為、神様の神殿を建てることも、そこに入ることもできないのです。聖書には人のことを「バカ」と呼んだ人ですら殺人者だと書いてあります。あなたはそのようなことを言ったことがありませんか。人のことを心の中で、頭が空っぽな人だなあ、などと思ったことがありませんか。ダビデはバテ・シェバやその他大勢を、自分の想い通りにさせようとして、その人達を褒めて媚びを売りました。あなたも、困った状況に陥った時、自分の想い通りにしようと媚を売ったことなどありませんか。それも罪です。ある人が悪く思われるように、その人のことを悪く言ったことがありますか。例えば、ダビデがゴリアテは割礼を受けていないから悪い人だと言ったように、神の姿につくられた人に悪い信者であると言ったことはありますか。人に対する悪口も罪です。このように、私たちもダビデと同じであり、ダビデも私たちと同じです。ダビデは神に油注がれた者でしたが、他の人と同様、完璧ではありませんでした。そして、ダビデと同様、私たちも元々神の神殿に入ることができない理性のない動物なのです。そして神の義によって裁かれ、破壊されるべき罪人です。

大切なポイント:ダビデはここで、人間を不義で理性のない動物と比較をしているわけではありません。この比較は、全ての人間を無限で普遍的に正しく完璧な神と比較しています。神に敵う人などいますか。ダビデですら比較の対象にはなりません。「[10]次のように書いてあるとおりです。「正しい者はいない。一人もいない。[11]悟る者はいない。神を探し求める者はいない。[12]皆迷い出て、誰も彼も無益な者になった。善を行う者はいない。ただの一人もいない。」[23]人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっていますが、」ローマの信徒への手紙3:10-12, 23

私たちが負けているのは、隣人と比較された時ではなく、「神の栄光を受けられなくなって」いるからです。このように、私たちは皆、聖なる正しい神の御前では、理性のない動物と一緒なのです。

考えるための質問2:自分をよく観察してみてください。私たちは皆、ダビデと同じです。神の栄光を受けられなくなった理性のない動物です。周りを見渡しても、そのような理性のない動物に囲まれています。もっとひどいのは、ダビデと同様、神の律法によって、自分の不義を非難される敵がいることです。ペトロの手紙一5:8「[8]身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、誰かを食い尽くそうと歩き回っています。」その敵が言っていることは間違っていません。私たちは不義であるから指摘されて当然なのです。しかし、ダビデの話、私たちの話はここで終わりません。今度は人間を非難する者―悪魔―との比較へと続きます。**私たちは守られています** 1898年生まれのチェスター・ポーラーという米海兵隊員がいました。50年以上もの間、国のために尽力し、最も多くの勲章を獲得したと言われています。1950年、戦地で彼は隊員達と一緒に、待ち伏せしていた敵に囲まれてしまいました。その時、彼は驚くべき発言をしました。「敵に包囲されてしまったのなら、ものごとは単純だ」と。自分を正当化するために、自分vs敵と考え、周りのせいだと受け取っても構いませんが、それは何の意味もありません。不義vs不義の状態です。全員正しくないだけです。あるいは、負けたと感じて、天を仰ぎイエス・キリストの名前を呼び、救いを求めることができます。「[12]あなたのもとに逃れるすべての者が喜びとこしえに喜び歌いますよ

うに。あなたは彼らを覆い御名を愛する者があなたを喜び祝いますように。[13]主よ、あなたは正しき者を祝福し御旨の盾で守ってくださいます。」詩篇 5:12-13 このように、救い主イエス・キリストは私たちが非難されなくていいように、正義の盾で守ってくれます。それは、私たちが互いを非難しているのではありません。悪魔が緻密に私たちの罪を非難することを指しています。何故ならば、聖なる正しい神に対する罪だからです。しかし、希望はあります。黙示録 12:10「[10]そして私は、天で大きな声がこう語るのを聞いた。「今や、我々の神の救いと力と支配が現れた。神のメシアの権威が現れた。我々のきょうだいたちを告発する者／我々の神の前で昼も夜も彼らを告発する者が投げ落とされたからである。」主は私たちを告発する者の非難をそのままにしません。私たちを告発する者は十字架によって敗北しました。聖書には次のように記されています。ローマ 3:22「神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。そこには何の差別もありません。」ダビデは神に、彼の息子が神殿を建てるであろうと言われたことを覚えていますか。預言者ナタンはサムエル記下 7:11−14でダビデにこのように伝えています。「[11]昔、私の民イスラエルの上に士師を立てた頃のように、私はあなたの敵をことごとく退け、あなたに休息を与える。主は告げられる。主があなたのために家を興す。[12]あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの末裔、あなたの身から出る者を後に立たせ、その王国を揺るぎないものとする。[13]その者が私の名のために家を建て、私は彼の王国の王座をとこしえに堅く据える。[14]私は彼の父となり、彼は私の子となる。彼が過ちを犯すときは、私は人の杖、人の子らの鞭をもって彼を懲らしめよう。」これは単に、ソロモンのこと、人間の手で建てられた神殿の話ではありません。ダビデの子孫であるイエス・キリスト、神の神殿であるイエス・キリストのことを言っています。信仰によって、イエス・キリストの内にあるならば、イエス・キリストも私たちの内にあります。言い換えれば、イエス・キリストへの信仰を通して神の御国に入ることができます。聖書の 2 コリント 5:21 でこうあります:「[21]神は、罪を知らない方を、私たちのために罪となさいました。私たちが、その方にあって神の義となるためです」イエス・キリストは私たちのような邪悪で理性のない動物のために十字架の上で死んでくださりました。それほど、私たちのことを愛してくださっています。

考えるための質問 3: ダビデの子孫であり、神の御子であるイエス・キリストを信じる。イエス・キリストが十字架の上で流してくださった血の贖いによってもたらされる義を受け入れる。イエス・キリストを通して神の家に入ることができます。神の家では、神と共にあり、神の御臨在に囲まれます。自分を非難する者のことなど心配する必要がありません。しかし、それだけではありません。王の中の王である神を賛美する者にも囲まれることになります。ヘブライ人への手紙 12:1-2「[1]こういうわけで、私たちもまた、このように多くの証人に雲のように囲まれているのですから、すべての重荷や絡みつく罪を捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。[2]信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら、走りましょう。この方は、ご自分の前にある喜びのゆえに、恥をもいとわないで、十字架を忍び、神の王座の右にお座りになったのです。」救い主イエス・キリストを信じ、イエスを愛する人々が集まるキリストの体である教会で、イエスの愛に守られ喜びを分かち合いましょう。

詩篇 95:1「さあ、主に向かって、喜び歌おう。／救いの岩に喜びの声を上げよう。」

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1222jp

・クラス 101
(教会員になるためのクラス)
3 月 27 日(日)13:00〜17:00
・クラス 402
(キリストの伝え方)
4 月 9 日(土)13:30〜17:30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ申込み
http://t-b-c.us/sgsu